

# 保育学科

職位	役職	氏名
教授	科長	照井 裕子
教授	副科長	鈴木 弘充
教授		高木 友子
教授		多胡 綾花
准教授		赤井 裕美
准教授		大川 なつか
准教授		小笠原 大輔
准教授		亀井 美弥子
准教授		高橋 雅人
講師		小野 修平
講師		田中 あかり

# 湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022	～	2023
所属学科	保育学科		
職名	教授		
教員氏名	照井 裕子		

## 1. 教育の責任（何を行っているか）

私は本学保育学科の教員として、保育士資格及び幼稚園教諭二種免許の取得にかかわる関連科目を担当している。中でも「心理学」及び「子育て支援」の分野を中心に教育を行っている。将来保育者を目指す保育学科の学生が、他者の視点に立って物事を理解し自らの行動につなげていくことが重要であると考えている。そのため、「保育の心理学」では主に子どもの発達段階に応じた心理の理解を目指し、子どもの立場に立って子ども理解ができる力を養うことを目指している。また、「子育て支援」では、主に保護者の立場に立ち支援を展開できる力を養うことを目標としている。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて子ども及び保護者に寄り添い保育・支援を行うことのできる保育者を養成することであるとと考えている。

## 2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。

1. 人とのかかわりを大切にし、相手の視点に立つことができる将来の保育者としての資質の向上
2. 保育現場で求められる保育実践力の育成
3. 保育実践を意識した学びの提供

### 3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

上述の教育理念を達成するため、幼稚園教諭二種免許及び保育士資格取得にかかわる「保育の心理学」を通して、優れた保育実践を基にした事例等を用いながら保育者として求められる子どもの発達理解やそれを支える保育者のかかわりについて教授し、学生の保育実践力につながる基礎づくりをおこなっている。また、「保育の心理学」のほか、保育士資格取得に関わる「子育て支援」及び「子ども家庭支援の心理学」も含め、保育者に関わる子どもや保護者等といった他者の立場に立って考える視点を積極的に学生に提供し、自ら考える機会を得られるよう工夫しながら授業を行っている。

### 4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2022年度の学生による授業評価アンケート結果は、「子育て支援」について事前資料の配布や資料の見やすさについて学生から評価された。学生の反応を見ながら授業内で使用する視覚情報の整理を行ったことがアンケート結果に反映されたものとする。また、担当各科目において、ワークを取り入れるなど学生が主体的に学べる授業づくりの工夫を行った。この点についても学生の授業評価におけるコメントが得られており、学生参加型の授業づくりが実現できたものとする。

### 5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

教育改善への取り組みとして、相互授業参観の機会を積極的に活用し、他の教員の授業内での取り組みや工夫を参考にしている。また、自分の授業に対する教職員からのコメントについても活用し、授業の見直しをはかっている。

今後の教育に関する短期目標は、担当科目の開講期の変更(乳児保育 I 及び子育て支援)を踏まえ、より効果的な学修につながる教授内容や方法の構築することである。長期目標は、教育におけるDX化を踏まえ、担当科目における効果的な学修方法の構築することである。

## 5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

### ■前期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【木曜・1限 31317502 [保育の心理学] 照井 裕子】

PPT及び配布資料の情報量を前年度から見直しを行った。また、学生のコメント提出において学生からの疑問や理解しきれなかったところが出しやすいように教示し、具体的なフィードバックを都度行うようにした。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【木曜・1限 31362502 [乳児保育Ⅱ] 田中 あかり】

授業評価アンケートからは、「授業のスピードが速かった、ギリギリに終わることも授業の最後の方の内容が覚えられなかった」「126教室のテーブルが小さくて使いにくかった」「演習の時間が増えると嬉しい」「映像ではなく教員によるデモンストレーションを増やしてほしい」という指摘がそれぞれ1名でした。特に、授業内容のボリュームや時間配分は意識していましたが、4クラスの進み具合を揃えるために詰め込んでしまった回も多く反省しています。使用教室の変更は現状では難しいですが、次年度は配布プリントの大きさなどできるところから工夫していきたいと思います。その他についても考えていきたいと思います。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【火曜・4限 R3360004 [保育実践研究] 照井 裕子】

体験的な授業における取り組みを裏付ける知識等に関してじっくりと考えられるような資料や授業構成をより意識することを改善点としたい。

(記載なし)

## 6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
✓	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)
--------

・関連リンク・別途資料

(特になし)
--------

・特記事項

(特になし)
--------

## 7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	保育	1	31317501	保育の心理学
前期	保育	1	31317502	保育の心理学
前期	保育	2	23353001	保育実習指導Ⅱ
前期	保育	2	31361501	子ども家庭支援の心理学
前期	保育	2	31361502	子ども家庭支援の心理学
後期	保育	2	23352501	保育実習Ⅱ
後期	保育	2	31328501	子育て支援
後期	保育	2	31328502	子育て支援
後期	保育	2	31328503	子育て支援
通年	保育	1	31362501	乳児保育Ⅱ
通年	保育	1	31362502	乳児保育Ⅱ
通年	保育	1	31362503	乳児保育Ⅱ
通年	保育	1	31362504	乳児保育Ⅱ
通年	保育	2	R3360004	保育実践研究

## 7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	保育	1	31317501	保育の心理学
前期	保育	1	31317502	保育の心理学
前期	保育	2	23353001	保育実習指導Ⅱ
後期	保育	1	31362502	乳児保育Ⅱ
後期	保育	1	31362504	乳児保育Ⅱ
通年	保育	1	23352001	保育実習指導Ⅰ
通年	保育	2	31328501	子育て支援
通年	保育	2	31328502	子育て支援
通年	保育	2	31328503	子育て支援
通年	保育	2	31328504	子育て支援
通年	保育	2	R3360004	保育実践研究

以上

# 湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022	～	2023
所属学科	保育学科		
職名	教授		
教員氏名	鈴木 弘充		

## 1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学保育学科の教員として、主に障害児・者に関わる科目を担当している。2022年度の担当科目は、別記の通りである。  
「特別支援教育(障害児保育を含む)」では、障害児やその家族について理解を深め、関わりの基礎を身につけることを目標としている。  
「社会的養護Ⅱ」では、社会福祉施設における保育士の役割について、事例を通して考察することを通して、主体的に考え行動できる保育者になる基礎を身につけることを目指している。  
私の教育の責任は、将来保育者として職務に就くための基礎を身につけさせることである。

## 2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、以下の3点を重視している。

- 1) 保育者として必要とされる基礎知識の伝達
- 2) 広い視野と想像力の醸成
- 3) 柔軟な思考力と課題解決能力の醸成

### 3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、教育の理念を実現するため、担当する授業において、以下の方法を行っている。

- 1)「特別支援教育(障害児保育を含む)」では、障害児やその家族に関する基礎知識を伝達するため、主な障害について、映像資料を積極的に活用しながら、その要因、特性、関わり方の基礎的な知識を解説している。
- 2)「特別支援教育(障害児保育を含む)」、「社会的養護Ⅱ」では、広い視野や想像力を身につけられるよう、様々な障害特性や養育環境について解説している。
- 3)「特別支援教育(障害児保育を含む)」、「社会的養護Ⅱ」では、柔軟な思考能力と課題解決能力を醸成させるために、問いかけや事例検討を活用している。

### 4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2022年度の学生による授業評価アンケートの結果は、おおむね良好であった。映像資料の活用、時間配分にゆとりを持たせることによって、学生に具体的なイメージを喚起させ、思考させる時間を十分確保できたことが、結果につながったと考えられる。

学生支援については、2年生に対して就職活動への指導・対応を迅速に行ったことが成果として挙げられる。

### 5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

(授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り等について、5-2に記載)

## 5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

### ■前期科目■

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【木曜・2限 31325504 [社会的養護Ⅱ] 鈴木 弘充】

授業の内容に合致した動画教材を取り入れる。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【月曜・1限 31325002 [特別支援教育(障害児保育を含む)] 鈴木 弘充】

授業の内容に合った動画を、効果的に使用できた。

### ■後期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【月曜・1限 31325002 [特別支援教育(障害児保育を含む)] 鈴木 弘充】

授業の内容に即した視聴覚教材を取り入れた

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【月曜・3限 23360501 [進路・生活指導] 鈴木 弘充】

社会人マナーなどに関する特別講義の講師と内容をより学生のニーズに合致したものに改善する。

## 6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
✓	授業参観コメントシート	
✓	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

### ・上記以外のエビデンス

(特になし)
--------

### ・関連リンク・別途資料

(特になし)
--------

### ・特記事項

(特になし)
--------

## 7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	保育	2	31325503	社会的養護Ⅱ
前期	保育	2	31325504	社会的養護Ⅱ
後期	保育	1	23351501	保育実習Ⅰ(施設)
後期	保育	2	23320501	青年心理学
後期	保育	2	23340001	保育・教職実践演習(幼稚園)
通年	保育	1	23352001	保育実習指導Ⅰ
通年	保育	1	31325001	特別支援教育(障害児保育を含む)
通年	保育	1	31325002	特別支援教育(障害児保育を含む)
通年	保育	1	31325003	特別支援教育(障害児保育を含む)
通年	保育	2	23360501	進路・生活指導
通年	保育	2	R3360001	保育実践研究

## 7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	保育	2	31325501	社会的養護Ⅱ
前期	保育	2	31325502	社会的養護Ⅱ
後期	保育	1	23351501	保育実習Ⅰ(施設)
後期	保育	2	23320501	青年心理学
後期	保育	2	23340001	保育・教職実践演習(幼稚園)
通年	保育	1	23352001	保育実習指導Ⅰ
通年	保育	1	31325001	特別支援教育(障害児保育を含む)
通年	保育	1	31325002	特別支援教育(障害児保育を含む)
通年	保育	1	31325003	特別支援教育(障害児保育を含む)
通年	保育	2	23360501	進路・生活指導
通年	保育	2	R3360001	保育実践研究

以上

# 湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022	～	2023
所属学科	保育学科		
職名	教授		
教員氏名	高木 友子		

## 1. 教育の責任（何を行っているか）

私は本学保育学科の教員として主に保育学に関する授業を担当している。2022年度の担当科目は別記※のとおりである。

保育学は将来保育者となる学生の保育の基礎となり、さらに専門的な知識と技術を養うものであり、保育者たるべくそれらを確かに身につけられるように指導している。

「保育原理」は講義を通して子どもと保育についての基本的な知見と保育に必要な態度を身につけることを目標としている。

「保育・教育課程論」は講義と指導案作成を通し、教育課程の意義と編成方法、指導案作成の実際を学ぶことを目標とする。

「保育実習指導Ⅰ」は講義・演習を通して、実習と実習園についての知識を得、実習の準備を進めることを目標とする。

「保育実習Ⅰ（保育所）」は1年次の資格取得科目の学習内容を保育現場で実践することを通して、保育所と保育士の役割を理解し、2年次の学習課題を見出すことを目標とする。

「人間関係の指導」は講義と演習を通して、領域「人間関係」のねらいと内容と指導方法を学ぶことを目標とする。

「保育実践研究」は作成や実演を通して、主に言語に関わる児童文化財について学び、知識と技術を身につけることを目標とする。

「保育実習指導Ⅱ」は「保育実習Ⅰ（保育所）」の省察を通して課題を見出すと同時に「保育実習Ⅱ」の準備を進め、「保育実習Ⅱ」終了後の省察を通してその後の課題を見出すことを目標とする。

「保育実習Ⅱ」は保育現場での実習を通して、保育所と保育士の職務の学びを深め、実践力を身に付けることを目標とする。

「保育・教職実践演習」は演習を通して、保育者としての使命感や責任感、社会性や対人関係能力、保育内容の指導とクラス運営能力、幼児理解と対応の能力を身に付けることを目標とする。

私の教育者としての責任はこれらの教育活動を通じて、社会に貢献できる保育者を育てることである。

## 2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

本学科の卒業生は殆どが保育者として勤務する。そのため、私が教育活動を通して学生に望むことは子どもを愛し、理解し、尊重することの重要性を理解し、それを実践できる人材を育てることである。

### 3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業実践上の注意点は以下の通りである。

- 1)「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅱ」では子どもを愛し、尊重する保育を実践している実践園を選考するよう努める。
- 2)「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」では実習を成功させるべく、具体的な学びと保育現場で働く保育者からの講話を取り入れる。
- 3)「保育原理」「保育・教育課程論」「人間関係の指導」「保育・教職実践研究」では具体的な子どもと保育者の姿の紹介に努める。
- 4)「保育実践研究」では可能な限り実際の子どもの活動をとり入れる。

### 4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2022年度「保育・教職実践研究」授業内のアンケートでは、現場保育者による保育実践の発表が大変好評であった。次年度以降も可能な限り実行したいと考える。

学生支援に関して2年生は一人一人のニーズに寄り添い、希望就職100%を達成したことが成果である。1年生に関しては高校時代のコロナ禍の影響もあり、入学時の不安がまだまだ強く、早期の支援を次年度以降心がけたい。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

(授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り等について、5-2に記載)

## 5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

### ■前期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【月曜・4限 23314001 [保育原理] 高木 友子】

授業後半、学生の課題作成を取り入れ、提出された課題についてのフィードバックを行った。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【月曜・4限 23314001 [保育原理] 高木 友子】

発達の流れと教材と課題の相性を考えてカリキュラムを組んできたが、学生としては学生自身の課題のPDCAサイクルの連続性についての要求が見られたので次年度はカリキュラムに活かしたい。

### ■後期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【火曜・4限 31315503 [保育・教育課程論] 田中 あかり】

本授業では、2名の教員で1クラス受講生50名弱の指導案を一人一人添削し面談をしながら返却しています。今年度の授業評価アンケートでは、指導案を個別に添削しコメントして返却してもらえることが良かったという記述が目立ちました。昨今の傾向として学生は個別の指導を求める傾向が強いことを感じます。一人一人への丁寧な指導をより一層意識して進めていきたいと思えます。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【水曜・3限 23340002 [保育・教職実践演習(幼稚園)] 高木 友子】

保育現場で最先端の保育に関わる保育者を特別講師として招聘し、特別講義の回を設け、以後その展開を授業内容に反映させた。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【月曜・1限 23322501 [人間関係の指導] 高木 友子】

新しい教科書を採択し、より実践的で学生が身近なこととそとらえられる講義内容の展開を図る。

## 6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
✓	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)
--------

・関連リンク・別途資料

(特になし)
--------

・特記事項

(特になし)
--------

## 7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	保育	1	23314001	保育原理
前期	保育	1	23314002	保育原理
前期	保育	1	23314003	保育原理
前期	保育	2	23353001	保育実習指導Ⅱ
後期	保育	1	23351001	保育実習Ⅰ(保育所)
後期	保育	1	31315501	保育・教育課程論
後期	保育	1	31315502	保育・教育課程論
後期	保育	1	31315503	保育・教育課程論
後期	保育	2	23340002	保育・教職実践演習(幼稚園)
後期	保育	2	23352501	保育実習Ⅱ
通年	保育	1	23352001	保育実習指導Ⅰ
通年	保育	2	23322501	人間関係の指導
通年	保育	2	23322502	人間関係の指導
通年	保育	2	23322503	人間関係の指導
通年	保育	2	23322504	人間関係の指導
通年	保育	2	R3360002	保育実践研究

## 7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	保育	1	23314001	保育原理
前期	保育	1	23314002	保育原理
前期	保育	1	23314003	保育原理
前期	保育	2	23353001	保育実習指導Ⅱ
後期	保育	1	23351001	保育実習Ⅰ(保育所)
後期	保育	1	31315501	保育・教育課程論
後期	保育	1	31315502	保育・教育課程論
後期	保育	1	31315503	保育・教育課程論
後期	保育	2	23340002	保育・教職実践演習(幼稚園)
後期	保育	2	23352501	保育実習Ⅱ
通年	保育	1	23352001	保育実習指導Ⅰ
通年	保育	2	23322501	人間関係の指導
通年	保育	2	23322502	人間関係の指導
通年	保育	2	23322503	人間関係の指導
通年	保育	2	23322504	人間関係の指導
通年	保育	2	R3360002	保育実践研究

以上

# 湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022	～	2023
所属学科	保育学科		
職名	教授		
教員氏名	多胡 綾花		

## 1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学保育学科の教員として、「身体表現」や「表現の指導」などの専門科目と「体育実技／理論」の基礎科目を担当している。加えて「教育実習指導」「教育実習」などの幼稚園教諭二種免許状取得に関わる実習科目を4名の複数教員で受け持っている。保育士資格や幼稚園教諭二種免許状を取得を目指す保育学科の学生が、二年間で86単位を取得し、三つの資格・免許を取得できるように、質の高い授業やきめ細やかな学生指導に注力している。各科目については以下である。

「身体表現」では、学生自身があそびを体験することで保育者としての視点や援助方法を学ぶことを目標としている。「表現の指導」では様々な表現やあそびに触れ、答えは一つではないこと、子どもと共に創る保育に到達できるように目指している。「教育実習指導」においては、複数教員で徹底指導を行い、実習に送り出すとともに、一人ひとり異なる実習先や内容に応じて、きめ細やかに対応している。

また「表現発表プロジェクト」担当であり、1年次後期湘北祭、2年次前期新入生歓迎オリエンテーション、2年次後期出張公演を通して、表現力、企画計画力、実践力、コミュニケーション能力、協調性など、保育に繋がる様々な力を育成している。

学生支援では、7班を担当し、子どもたち一人ひとりを大切にできる保育者育成を目指し、学生一人ひとりの気持ちや性格、希望進路、家庭状況、経済状況に寄り添うことができるように心がけている。

これらの授業や行事などの教育活動を通じて、私の教育の責任は、卒業後保育現場で中核となって活躍し、時代に合わせて新しい保育を模索しながら長く子どもたちの育ちに関わる保育のプロを養成することであると考えている。

## 2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、保育現場で真に活躍できる保育者養成のために、以下の3点を重視している。

- 1) 自ら体験・実践することで得る気づきや発見  
人から与えられる知識だけではなく、自ら体験・実践したことから自分なりの考えや見方を持ってほしいと考えている。まず自分がやってみて、気付くこと、次はどうしたらいいか、考えること、それらを重視している。
- 2) 人と関わりながら、共同で活動する中で広がる発想や視野  
保育は様々な立場の人と協力しながら進めていくものである。狭いものの考え方に陥らないように、柔軟に人の意見にも耳を傾けること、人と一緒に一つのものを作り上げることで一人では生み出せなかった世界や境地に辿り着いてほしい。そのため、最近の学生たちが苦手としている、グループワークや共同作品づくりを取り入れている。
- 3) 新しい保育を自ら生み出すことができる豊かな感性や創造力  
表現活動を多く担当している。1)と同様、人から与えられたものを実行できるだけではなく、新しい価値や世界を創り出す保育者を目指し、自身が面白い、楽しいと思う気持ちを大切に、まずはやってみた感想、それらの振り返りを大切にしている。

### 3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

上述の教育理念を達成するため、次のような授業を行っている。

1)「身体表現」では保育現場で行われている実践的なあそびを取り扱う。あそびを学生自身が体験し、授業後に振り返りとして、子どもの目線であそびを捉え直し、また保育者としてどのように配慮や留意したらいいのかをまとめる、主体的な学びに力点を置き、「身体表現ノート」作成をしている。また「身体表現」、「表現の指導」では、ペアによる模擬指導を授業の柱としている。指導案作成を通して、他者の発想や考えに触れ、他者と自分の意見を折衷しながら、一つのあそびを作り上げるが、保育はチームで進めていくものであるため、このような他者との活動やグループワークを通して、コミュニケーション能力や協調性、他者と協同する力を磨くことに繋がっている。

2)「教育実習指導」においては、4名の教員で担当し、各教員の専門性を活かし展開している。クラス単位や授業実施方法(対面・オンライン)についても、内容に合わせて柔軟に変更しながら実施している。また学生が躓きやすいポイントを事前解説し、個別対応をするなど、丁寧な指導を心がけている。加えて、学生たちが幼稚園現場のイメージを描きやすいように、現役で活躍する卒業生をゲストに招き、話をしてもらう卒業生講演を企画している。

3)学生支援では、每期1回、個人面談を実施し、状況把握に努めている。また相談しやすいようにオフィスアワーの時間を周知し、学生が相談に来やすいようにしている。相談の申し出があった場合は速やかに面談を設定するようにしている。

### 4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

【2022年度後期授業評価アンケート】「身体表現」(演習)においては、授業の満足度が平均3.82ポイントで、「子どもが行う遊びについてみんなで学んで遊べた」「先生になってからどんな感じで子どもと遊べば良いかなどの想像がついた」などの感想があった。しかし、ICTの活用については3.20ポイントであった。授業後ノート作成に役立つ授業内容を振返られる方法を考えていきたい。

次に【2022年度前期授業評価アンケート】「教育実習指導」(演習)は、授業満足度は平均3.39ポイント、授業の分かりやすさは平均3.46ポイントで、PPTを使って要点がまとまっていて分かりやすかったとの声が聞かれた。実習前のオンライン期間の授業も安心につながったようだ。学年歴に影響するが、実習の振り返りや自習が長いとの声が聞かれた。改善していきたい。

学生支援については、1名を除いて全員が希望先に就職することができた(心身不安定なため通院中、1名は目標を卒業とした)。5名は公務員希望、4名合格することができた(熱海市・西伊豆町・秦野市・小山町)。1名は秦野市に補欠合格となったが、1月連絡であったため、辞退した。2年生の評価は3.41ポイント、学生の置かれた状況に関心を持ち、相談に乗ることができた。しかし、有効な情報やアドバイスをくれるかという設問にそう思わないと回答した学生が25%いた。班別活動が制限され、班で伝える時間がなかったことが考えられる。班活動時間を設け、有用な情報を提供できるようにしていきたい。1年生は学期ごとの面談によって学生生活をサポートでき、親身になって相談を聞いてくれたと多数回答があった。引き続き、サポートしていきたい。

## 5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

教育改善への取り組みとして、学内でのFD /SD研修は進んで参加し、授業に反映できるように努めている。授業評価アンケートは半期結果を次期に活かし、授業改善に役立てている。次年度の授業計画については、今年度の学生の反応や状況も鑑みながら、新たに授業内容や計画を必ず見直し、学生に合わせて授業を展開できるように努力している。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである。

### I. 短期目標

- 1) 学生の声やニーズを大切にした授業内容の見直し
- 2) 学生の能力やレベルに合わせた授業課題の設定
- 3) 資料提示やファイル提出など、Eラーニング活用や充実

### II. 長期目標

- 1) 子どもの体力低下の問題など、社会課題に対する問題解決に繋がる教材作成
- 2) 保育現場や地域社会との連携
- 3) 「湘北保育」ブランドの確立

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

(記載なし)

(記載なし)

## 6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)
--------

・関連リンク・別途資料

(特になし)
--------

・特記事項

(特になし)
--------

### 7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	保育	2	23323501	表現の指導
前期	保育	2	23323502	表現の指導
前期	保育	2	26350001	教育実習
前期	保育	2	26350501	教育実習指導
通年	保育	1	23310002	体育実技／理論
通年	保育	1	23310003	体育実技／理論
通年	保育	1	31330501	身体表現
通年	保育	1	31330502	身体表現
通年	保育	1	31330503	身体表現
通年	保育	2	R3360003	保育実践研究

### 7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	保育	2	23323501	表現の指導
前期	保育	2	23323502	表現の指導
前期	保育	2	26350001	教育実習
前期	保育	2	26350501	教育実習指導
通年	保育	1	23310001	体育実技／理論
通年	保育	1	23310002	体育実技／理論
通年	保育	1	23310003	体育実技／理論
通年	保育	1	23310004	体育実技／理論
通年	保育	1	31330501	身体表現
通年	保育	1	31330502	身体表現
通年	保育	1	31330503	身体表現
通年	保育	2	R3360003	保育実践研究

以上

# 湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022	～	2023
所属学科	保育学科		
職名	准教授		
教員氏名	赤井 裕美		

## 1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学保育学科の教員として、主に表現科目の「音楽」に関する授業を担当している。\* 担当科目は別記のとおりである。  
音楽科目は保育者を目指す学生が保育士資格、幼稚園教諭二種免許を取得するための必修科目であることから、実践的な技術や保育者として必要な表現力を身につけることを目的に指導している。  
私の教育の責任は、これらの科目を通して、卒業後、社会に役立つ保育者の育成をすることであると考 えている。

## 2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。  
1)自ら学ぶ姿勢を身につけられるよう、適切なアドバイスをすること。  
2)社会人としてのコミュニケーション能力を育成すること。  
3)技術的なことだけでなく、子どもと関わる上で大切なあたたかい心や表現力を養うこと。

### 3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は上述の考え(教育の理念)を実現するため、授業内・授業外を問わず、個々の学生に常に細やかな配慮のもと、親身になって接することを心掛けている。  
特に「音楽実技Ⅰ」、「音楽実技Ⅱ」では、個人授業(レッスン)であることから、必要なマナー(挨拶のしかた、話し方)を含めた指導が可能であるため、丁寧に関わるようにしている。また、現場で必要とされている技術を身につけさせるため、個々のモチベーションが高まり、自発的に練習することができるような声かけ、指導を心掛けている。

### 4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

学生による授業評価アンケート結果について、「音楽実技Ⅰ」や「音楽実技Ⅱ」では今まで同様、全体には個々のレベルに合わせた丁寧な指導に関する評価を含め、高かった。特にオンライン授業期間のレッスンに関しては、対面授業では控えている「歌唱」指導も行えたことで学生の満足度も高かったものの、昨年度と同様にインターネット接続の不具合が生じた学生もいた。その際のフォローも非常勤講師の方々と連携を取りながら行い、充実した授業内容を進めていきたいと考える。

## 5-1. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

教育改善への取り組みとして、相互授業参観をはじめとする学内のFD研修は毎回参加している。他の教員の授業を参観することで、特に講義系の授業においては、(各教員それぞれのやり方で)学生の理解度を確認しながら授業を進める様子等を学んでいる。学生からの授業評価アンケートの他、授業後に毎回提出させているリファレンスシートを活用し、可能な限り次の授業に反映させるよう心掛けている。

今後の教育に関する目標については次のとおりである。

### I. 短期目標

1) 授業内容に関して、学生の様子に合わせて説明のしかたを工夫することで、学生がより理解しやすいようにする 2) Eラーニングなどのコンテンツを提供することで(模範演奏の曲数充実)、学生が自発的に学べるようにする。

### II. 長期目標

学生には、保育現場の現状に合わせた細やかなアドバイスを送ることで、卒業後すぐに社会貢献できるような明るく前向きな保育学生を育てる。

## 5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

### ■前期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【月曜・4限 31332004 [音楽表現] 赤井 裕美】

感染対策のため、皆で合唱などができない分、手足を使ってリズムを取ったりしながら遊び歌やリトミックを充実させる内容を多く盛り込んだ。隔週の担当教員によって授業内容自体は異なるが、それぞれについて「わかりやすい」「現場に出た時に使える内容」等、どのクラスも満足度が100%であった。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【金曜・2限 R2332502 [音楽実技Ⅱ] 赤井 裕美】

電子ピアノの不具合(音が聞こえない)、アップライトピアノの不具合(湿気により鍵盤が戻りが遅い)等があったことについては調整の必要があり、業者に学生の授業外の期間(7月末)には対応してもらった。機械の多少の不具合については仕方がないが、今後は学生が不平等を訴える前に対処するよう努める。

### ■後期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【水曜・2限 R2331003 [音楽実技Ⅰ] 赤井 裕美】

非常勤講師とローテーションしながら進める授業のため、個々の学生への指導の仕方や言葉かけについて毎回確認を行っていたので、「丁寧でわかりやすい」「ピアノが苦手でしたが、ほめてくれるのでやる気になりました」等、学生から概ね満足度は高かった。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【金曜・2限 R2332502 [音楽実技Ⅱ] 赤井 裕美】

アンケートに「試験で懸命にやっているのに、K先生が足を組んで、間違えるたびに目をつぶるなど、感じが悪かった」「間違えるとえ？え？などと言われ、やりにくかった」、他にも「無言の圧を感じる」、あるいは授業中に泣かせてしまうなど、指導を受ける学生が不快に感じる対応をする教員がいることはわかってきたため、毎週そういったことについて諸々お願いをし続けてきたが、さすがに大先輩の面々に対し、指導の態度まで言及することはできなかった。学生には申し訳なかったと思う。該当教員はこの3月で任期(10年)による退任となった(最後の試験で審査途中に「次の用事があるから」と教室を出て帰ったとのこと…。ベテラン4名が退任した代わりに4月からは音楽担当に新しいメンバーが5名入るが、主担当として伝えるべきことを毅然と伝え、良いチームワークで学生が「受講して良かった」と感じる授業を行うつもりである。

## 6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)
--------

・関連リンク・別途資料

(特になし)
--------

・特記事項

(特になし)
--------

### 7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	保育	2	26350001	教育実習
前期	保育	2	26350501	教育実習指導
通年	保育	1	31332001	音楽表現
通年	保育	1	31332002	音楽表現
通年	保育	1	31332003	音楽表現
通年	保育	1	31332004	音楽表現
通年	保育	1	R2331001	音楽実技 I
通年	保育	1	R2331002	音楽実技 I
通年	保育	1	R2331003	音楽実技 I
通年	保育	2	R2332501	音楽実技 II
通年	保育	2	R2332502	音楽実技 II
通年	保育	2	R3360005	保育実践研究

### 7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	保育	2	26350001	教育実習
前期	保育	2	26350501	教育実習指導
通年	保育	1	31332001	音楽表現
通年	保育	1	31332002	音楽表現
通年	保育	1	31332003	音楽表現
通年	保育	1	31332004	音楽表現
通年	保育	1	R2331001	音楽実技 I
通年	保育	1	R2331002	音楽実技 I
通年	保育	1	R2331003	音楽実技 I
通年	保育	2	R2332501	音楽実技 II
通年	保育	2	R2332502	音楽実技 II
通年	保育	2	R3360005	保育実践研究

以上

# 湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022	～	2023
所属学科	保育学科		
職名	准教授		
教員氏名	大川 なつか		

## 1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学保育学科の教員として、主に幼児教育の理論に関する授業を担当している。  
2022年度の担当科目は、別記※のとおりである。  
幼児教育に関する理論は、将来保育者を目指す保育学科の学生が幼児にふさわしい保育を展開するための素地として重要であることから、自らの保育観が持てるよう指導している。  
「教育原理」では、教育に関する基礎的知識を教授することによって、幼い子どもに対する教育のあり方を考えることができることを目指している。  
「教育方法論」では、実際的な保育場面を例示しながら保育方法のポイントを伝えることで、幼い子どもに対するふさわしい関わり方ができることを目標としている。  
「教職概論」では、教師という職務上の特徴を取り上げることによって、自らの進路を適切に選択でき、教職のあり方を主体的に考えられることを目指している。

## 2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。

- 1) 知識が確実に身に付くように、丁寧に指導すること。  
保育職に関する専門知識の修得は欠かせないことから、繰り返し丁寧に指導することを重視している。
- 2) 学生自らが考えられるように、適宜質問を投げかけること。  
身に付けた知識を基に、学生が自分事として考えられるような質問を心がけている。
- 3) 互いの意見を尊重し、学びが深まること。  
学生がそれぞれの立場で導き出した考えを共有し、互いに認め合えるような雰囲気づくりを大切にしている。

### 3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の考え(教育の理念)を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている。

- 1)「教育の制度と経営」では、各事項の解説だけでなく、それらに関連する事柄について学生自身にその場で調べてもらい、より身近な事象であることを認識してもらっている。
- 2)「教育方法論」では、具体的な保育場面を例に挙げ、どのように子どもに関わったら良いか考えてもらい、その根拠と共に全体で共有できるよう発表してもらっている。
- 3)前年度の授業では、コロナ禍にあってグループワークをすることが出来なかったことから、本年度後期の授業ではコロナ対策を取りつつも、グループワークを積極的に行うこととした。

### 4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

22年度の学生による授業評価アンケート結果は、授業内容について分かりやすい、他の人の考えが分かって良かったとの評価があった。これは毎時授業前に前回の振り返りをするとともに、授業中もグループワークを積極的に取り入れたことが、アンケート結果の向上につながったと考える。また、授業以外の学修時間については、十分ではないとの結果が得られたことから、次年度は授業前にテキストには目を通しておく、授業後にノート整理をする、など都度発信していきたい。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

(授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り等について、5-2に記載)

## 5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

### ■前期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【木曜・4限 23315003 [教育原理] 大川 なつか】

分かりやすい言葉を選び丁寧に授業を行った。また小テストをこまめに挟み、どのような問題が出題されそうか学生自身に選ばせることで、大事なポイントを主体的に考えることが出来た。結果的に多くの学生が高得点がを取れ、満足度が高かったようだ。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【火曜・3限 23327501 [教育方法論] 大川 なつか】

予習・復習をしていない者の割合が4割に上った。次回からは予習や復習の必要性を説くと共に、そのようにせざるを得ない仕組み、課題等を考えていきたい。

### ■後期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【木曜・4限 23327503 [教育方法論] 大川 なつか】

これまで2年生で行ってきた科目を、今年度は初めて1年生でも行った。実習を経験していない1年生にどれくらい伝わるか心配していたが、具体的なエピソードを取り上げて丁寧に説明したり、互いに意見を出し合ったりと、工夫を重ねたため、高評価につながったと考える。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【木曜・2限 31361001 [教育の制度と経営] 大川 なつか】

授業以外に勉強を全くしなかったという学生の割合が3割弱いたため、次年度からは課題を出す、小テストを課すなど学生の様子を見ながら工夫していきたい。

## 6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
✓	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)
--------

・関連リンク・別途資料

(特になし)
--------

・特記事項

(特になし)
--------

## 7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	保育	1	23315001	教育原理
前期	保育	1	23315002	教育原理
前期	保育	1	23315003	教育原理
前期	保育	1	30312101	現代の人間関係分析
前期	保育	2	23327501	教育方法論
前期	保育	2	23327502	教育方法論
前期	保育	2	23353001	保育実習指導Ⅱ
後期	保育	1	23327503	教育方法論
後期	保育	1	23327504	教育方法論
後期	保育	1	23351001	保育実習Ⅰ(保育所)
後期	保育	2	23340003	保育・教職実践演習(幼稚園)
後期	保育	2	23352501	保育実習Ⅱ
後期	保育	2	31316001	教職概論
後期	保育	2	31316002	教職概論
後期	保育	2	31361001	教育の制度と経営
後期	保育	2	31361002	教育の制度と経営
通年	保育	1	23352001	保育実習指導Ⅰ
通年	保育	2	R3360008	保育実践研究

## 7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	保育	1	23315001	教育原理
前期	保育	1	23315002	教育原理
前期	保育	1	30312101	現代の人間関係分析
前期	保育	2	23353001	保育実習指導Ⅱ
前期	保育	2	31316001	教職概論
前期	保育	2	31316002	教職概論
後期	保育	1	23327501	教育方法論
後期	保育	1	23327502	教育方法論
後期	保育	1	23351001	保育実習Ⅰ(保育所)
後期	保育	2	23340003	保育・教職実践演習(幼稚園)
後期	保育	2	23352501	保育実習Ⅱ
後期	保育	2	31361001	教育の制度と経営
後期	保育	2	31361002	教育の制度と経営
通年	保育	1	23352001	保育実習指導Ⅰ
通年	保育	2	R3360008	保育実践研究

以上

# 湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022 ~ 2023
所属学科	保育学科
職名	准教授
教員氏名	小笠原 大輔

## 1. 教育の責任（何を行っているか）

私は保育学科の教員として、保育士資格や幼稚園教諭二種免許状取得に科目を担当し、その中でも主に「身体表現」「健康の指導」「保育実習・保育実習指導」に関する授業を担当している。「身体表現」では、子どものあそびを豊かに展開するための身体活動や身体表現に関する必要な知識や技術を体験を通して習得するし、特に授業で学んだあそび内容や実践上の留意点、展開や応用方法、考察、自分で調べたことなどをノートにまとめ、実習や現場で活用できるようにすることを目標としている。「健康の指導」では、自身の健康についての意識を高め、健康な生活を送ることができるようになること、子どもたちの健康を守るために保育者が果たす役割を理解し、保育者としての援助・配慮を行えるようになること、健康教材の作成・発表を行うことで、具体的な健康指導を実践する力をつけることを目標としている。「保育実習・保育実習指導」では、保育所と保育士の役割を現場体験を通して理解し、保育士資格取得科目での学習内容を総合的に実践し、応用すること、保育実習I(保育所)での学びを元に、さらに実践的な責任実習を立案・実践し、保育所と保育士の職務について理解を深め、保育士としての実践力を身に着けることを目標としている。

また、課外活動では福祉委員会、ダンスサークル、おどろあそびサークルの顧問として、想像力豊かに主体的に動くことを重視して指導している。

## 2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、以下の点を重視している。

1) 学生たちが受け身ではなく積極的に他者と関わり、かつその関わり自体に喜びを感じることができれば、社会人となっても短期的・長期的課題にも勇気と自信をもって仲間と立ち向かうことができるようになるであろうと考えられることから、コミュニケーション能力を高められるよう、グループワークの機会を増やすこと。

2) 多様性を認め合う社会に進み始めている今日において、人格形成の重要な時期である乳幼児期はその最たるものであるべきであり、将来そこに身を置く者として学生が、一人ひとりの違いを尊重し合える「開かれた空間」を大切にすること。

3) 価値観や環境などは時代と共に変化していくものであることから、今の学生・今の乳幼児とのずれが生じぬよう、研究と教育を繋げること。

### 3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は上記の考えを実現するため、次のような工夫・方法を行っている。

- 1)「身体表現」「体育実技／理論」「健康の指導」「おどろあそびサークル」では、仲間と共に工夫をし挑戦できるよう、一人では難しいが仲間とならばクリアできるであろう適切な難易度の課題を課している。
- 2)「身体表現」「健康の指導」「おどろあそびサークル」では、一人ひとり考え方や感じ方が異なることを理解し、その気づきから新たな喜びが生まれるよう、想像し、創造し、発表する場を多く設けている。
- 3)自身の研究の成果と教育現場が乖離せぬよう、「どう活かすか」を意識した研究を行い、可能な限り「いま・ここ」の冷めていない研究を遂行し、学生へのフィードバックを行っている。

### 4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2022年度の学生によるアンケートでは、グループ発表に対する記述、実際の写真や動画を教材に用いている点などに対する記述が多く、主体的な学びや実践的な学びに繋がったと考えられる。  
またサークル活動では、全国大会への参加など短期大学ではなかなか経験できないことにも挑戦したことで、大きな自信に繋がっている。

## 5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

授業評価アンケートから、今の学生は「授業は答えを教えてくれるところ」と思い込んでいる者が非常に多いということが分かった。これまでの学習で主体的に考え、自ら課題を見つけ学ぶ経験が足りていないと考えられる。従って今後は授業のペースを落とし、ゆっくりじっくり学ぶ時間を設定する。

短期目標> 学生が課題提出においてICTを使いこなせるようにする。

長期目標> グループワークの質の維持及び対面授業時間の確保。

## 5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

### ■前期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【金曜・4限 23310001 [体育実技/理論] 小笠原 大輔】

極力、学生自身に準備・運営(ルール設定、チーム編成)・片付けをさせる。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【月曜・1限 23321501 [健康の指導] 小笠原 大輔】

ハイブリッド授業において、どうしてもオンライン側への配慮が薄くなってしまいう点

### ■後期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【月曜・1限 23321501 [健康の指導] 小笠原 大輔】

パワーポイントでグラフ、写真など多く使用。グループワークを多く入れる。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【月曜・1限 23321502 [健康の指導] 小笠原 大輔】

対面と欠席者用のZoomを併用する際に、マイクで喋ってもPCから離れてしまうとオンライン上では声が聞き取りにくくなるという訴えが多かったことから、欠席Zoom参加者がいる場合には、自身の動きを抑えてPC前から移動しないよう注意する。

## 6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
	授業担当科目一覧	
	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

### ・上記以外のエビデンス

(特になし)
--------

### ・関連リンク・別途資料

(特になし)
--------

### ・特記事項

(特になし)
--------

### 7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	保育	1	23351001	保育実習 I (保育所)
通年	保育	1	23310001	体育実技/理論
通年	保育	1	23310004	体育実技/理論
通年	保育	1	23352001	保育実習指導 I
通年	保育	1	31330501	身体表現
通年	保育	1	31330502	身体表現
通年	保育	1	31330503	身体表現
通年	保育	2	23321501	健康の指導
通年	保育	2	23321502	健康の指導
通年	保育	2	23321503	健康の指導
通年	保育	2	23321504	健康の指導
通年	保育	2	R3360006	保育実践研究

### 7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	保育	2	23353001	保育実習指導 II
後期	保育	1	23351001	保育実習 I (保育所)
後期	保育	2	23352501	保育実習 II
通年	保育	1	23352001	保育実習指導 I
通年	保育	1	31330501	身体表現
通年	保育	1	31330502	身体表現
通年	保育	1	31330503	身体表現
通年	保育	2	23321501	健康の指導
通年	保育	2	23321502	健康の指導
通年	保育	2	23321503	健康の指導
通年	保育	2	23321504	健康の指導
通年	保育	2	R3360006	保育実践研究

以上

# 湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022	～	2023
所属学科	保育学科		
職名	准教授		
教員氏名	亀井 美弥子		

## 1. 教育の責任（何を行っているか）

私は本学保育学科の教員として、主に子どもの発達や学習への理解や子どもの援助、またそれを支える保護者に対する援助に関する授業および保育実習についての指導に関する授業を担当している。2022年度の担当科目は別記※のとおりである。子どもの発達や学習の理解および子どもと家族を含めた援助は、保育者の学びの根幹をなす部分である。

1年生科目の「子どもの理解と援助」の授業では、学生が子どもの発達の道筋の基礎を理解し、その発達の根拠に基づいて学生が具体的に子ども達を援助できることを目標としている。

同じく1年生科目の「環境の指導」の授業では、子どもの保育環境の大切さや科学的知識の獲得に向けた関わり方についての基礎知識や事例、また実践的体験(演習)を提供することで、乳幼児からの環境構成の重要性の理解とそれを自分自身で運用する力の養成を目標としている。

2年生の科目である「幼児の理解と相談」の授業では、学生が幼児の姿について理解したうえで、その問題の個人的・社会的背景について意識し、より広い視野のなかで幼児の発達や支援について学ぶことを目標としている。

また、22年度より開始した2年生の「保育実践研究」では前期では主に環境分野における実践的な実験やその振り返り、後期は各自の関心に基づき探求する姿勢について学ぶことを目標とした。

22年度ではしばらく新型コロナウイルスによって閉講状況だった「地域子育て支援論」も復活した。この科目では学生が地域の子育て支援の現場に参加し、親子との関わりを通じて保護者支援について考察することを目標としている。

「保育実習Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」では保育士および保育実習生としての心構え、また実地的な準備についてできる限り具体的に指導を行うことで、学生がスムーズに実習に参加できることを目指している。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、保育に関する基本的な知識やスキルと共により広い視野と思考する力を持った保育者を養成することであると考えている。

## 2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は本学の教育活動において次の3点を重視している。

1)先達の研究知見に基づき、基本的な知識を正しく理解できるよう丁寧に伝えること。

学科の特色として誤った知識や知識、理解不足によって子どもや保護者に対する不利益を生じさせかねない。まずは基本的な乳幼児やその家族の支援について正しく理解する重要と考える。理解や知識の習得は簡単なことではないので、何度も根気強く丁寧に伝えることが必要と考えている。

2)円滑に社会生活を行うためのコミュニケーション能力を身につけるための指導を行うこと。

基本的な知識を身につけている学生でも、経験不足からか、特に自分とは異なる属性(教員、職員、実習先の指導者)とのコミュニケーションの仕方を学べていない学生が見受けられる。社会に出る前にその点を指摘し、学ぶことが重要であると考えている。

3)自分自身の考え方を他者に伝え、共有することでお互いに考え方や知識の幅を広げることの大切さを伝えること。

対人ケアの現場では科学的な知識のみで問題解決することが難しい場面が多い。その時に他者と意見を交換し、どのような対応が当事者にとって重要なのか多数の視点から議論を行うことや、忙しい職場の中であっても、お互いに学びあうことが重要と考えている。そのため、学生のうちからこのような態度を身につけることの重要性を強調し、授業でもできる限り他者を尊重した意見交換の機会を設けていきたいと考えている。

### 3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

1)「子どもの理解と援助」では、まず基礎的な知識の理解と習得ができることを目指している。そのためにスライドを使いポイントを示しつつ、前回の授業の確認の時間を作り、知識が自分の身になるように何度も同じことを復習できるようにしている。また、より具体的な理解、知識とイメージをつなぐために動画などの視聴覚教材を用いている。また、できる限り個々のリアクションペーパーや、学生同士の保育場面の書き取りを紹介するなど、多様な見方や考え方を学生に示すことで知見の幅が広がるようにしている。そのうえで「幼児の理解と相談」ではより広い視野を得るために、保護者の立場からの視点や外国人などマイノリティに関する視点をビデオ学習や事例研究などで導入し、基礎的な知識の理解の上に応用的な厚みを加えるような授業を行っている。

2)「保育実習Ⅰ、Ⅱ」「保育実習指導Ⅰ、Ⅱ」では、保育者、保育学生としてのふるまい方を学び、理解することを目指している。例えば、「保育実習指導Ⅰ」において自身が主に担当となっている「保育ボランティア」は実習指導のカリキュラムのなかで子どもたちの関わりの学びだけではなく、実習の流れを理解し、保育学生としてのマナーやふるまい方に関する導入部に位置づく。実習の準備段階として、学生に対して保育実習生としての自覚やふるまい方を身に着けるよう指導し、スムーズな実習体験へとつなげている。

3)「環境の指導」では基礎的な知識の習得と共に自分で実践してみることで子どもたち側の視点の理解や保育士としての知識の増大を目指している。そのために、実際に近隣の公園に行きその体験をまとめたり、植物を育て、観察する体験などを取り入れている。それらの体験をグループごとに分かち合うことを行う。さらに、決められた学びのテーマに沿って保育が活動を考え、模擬保育を行っている。保育者役、子ども役、観察者それぞれの立場から意見交換を行い、将来保育者として行う学び合いの姿を体験できるようにしている。また「保育実践研究」「地域子育て支援論」でも少人数であるという授業の特性も生かして、経験を分かち合い話し合う時間を多く設けている。

### 4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2022年度の授業科目については授業の評価については、ほぼ平均的な数値であった。学生のコメントを見ると、「ためになる授業」というような好意的な評価が見受けられ、特にグループワークについては学生にとって満足度の高い授業になっていることが伺われる。

一方、やや高度な内容を扱う回もあり、引き続き、学生の幅に対応する授業を模索する必要があると感じている。

マイスターとしての学生指導では2年生に対しては就職指導など、十分に行うことができたが、1年生に対してはクラスが分断されているということもあり、こまめに声をかけてはいたが、やや指導が偏ってしまった感覚を持っている。2年という短い期間で安心感を得られる指導者としての対応を今後も検討していく必要を感じた。

## 5-1. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

### I. 短期目標

#### 1) 「子どもの理解と援助」「幼児の理解と相談」の授業内容についての再考

授業のトピックが多岐にわたるが、それらをよりわかりやすくポイントを絞って伝えられるような内容にスライドやワークなどを含めて再検討していきたい。

#### 2) 乳幼児の発達や子ども支援について、より深く興味を引き付けるトピックや講義の再考

学力や意欲が低い学生に対してして、主体的な学びに導く素材が必要である。ただ見ているよりも、学生が手を動かすなどの参加型の授業が有効であるのは事実なので、より工夫をしていきたい。

### II. 長期目標

広い社会的視野を獲得するための態度を身につけた保育士・幼稚園教諭の養成まず最低限の知識や態度を身につけて資格を取ることが第一ではあるが、保育士・幼稚園教諭の社会的地位の向上を考えても、より学ぶ姿勢を持ち広い視野を身につけていくための態度の育成が必要である。

「保育実践研究」などを通じて日頃学力があまり高くないと見える学生でも、自分自身の関心のあるテーマについてはよく考え、意見を表明する意欲を感じた。保育に関連する問題や自分の関心に対してじっくりと学生がとりくめるような授業内容を目指していきたいと考えている。

## 5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

### ■前期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【木曜・1限 23322001 [環境の指導] 亀井 美弥子】

科目の目的を鑑みて、座学よりも学生自身の体験や発見が重要ではないかと思い、例年よりもグループワークを意識した活動を取り入れた。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【木曜・1限 23322001 [環境の指導] 亀井 美弥子】

体験的な学習時間を入れることで、結局何を学ぶべきか、という面をしっかりと伝えないとただやってみただけになってしまうので、メリハリをもっとつけることが必要と考えている。また、自主的なノート作成を推奨したが、学生によって大変差がつく内容になっていたと思われることが懸念される。検討事項。

■後期科目■

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【水曜・2限 23324501 [地域子育て支援論] 亀井 美弥子】

久しぶりに学外の子育て支援の現場に行くことができた。時間内で現場に出かける回数を確保すること、その準備を授業内に行うことが難しく、その配分については今後も熟慮が必要と感じた。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【木曜・1限 23322001 [環境の指導] 亀井 美弥子】

昨年度の反省から今年度意識したことは1. 安易にプリントを配らずノートをとってもらう(保育者は書く仕事が多く、それに慣れてほしい。特に自分で私の話をまとめたり、重要点を書きとる訓練をしてほしい) 2. 授業の構成を前半で保育における「環境」概念の理解、後半を実践と明確にしたこと。3. 後半の実践部(グループでの模擬保育)の指導案の作成を前年はグループで1枚だったものを全員提出にしたこと、以上です。1については書ききれなかったり、文句のある学生もあるかもしれない…とは思いましたが、その分eラーニングなどでの資料のアップなど意識しました。また、ずっと講義というよりは、題材に応じて手を動かす作業やゲームを入れたことで、書き取りばかり、という印象にならないように工夫をしました。2については前年がやや後期に慌てて概論を詰め込んでしまったため、その反省から教授する内容を整理したのですが、学生にとってはわかりやすかったかもしれません。3については昨年度の様子から、グループ単位の提出はやる学生とやらない学生が出てしまうことが明確だったので、改めましたが、全員が指導案を一度作ってみる取り組みは学生にとって有益だったと思います。ただ、もう少し丁寧に指導案作成についても伝えられるとよいと自分でも感じました。完全な指導案ではなく、保育活動計画のポイントを押さえた授業を行う必要があったと思います。1年といえども15回のなかで、どのように伝えることを精査していくかが今後の課題です。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【木曜・1限 23322001 [環境の指導] 亀井 美弥子】

昨年度から導入した5領域環境の学習内容の3つのテーマに沿ってグループごとに模擬授業を行ったが、昨年の反省に基づき、指導案の作成を全員に課した。また、昨年Gフォームのみで行ってしまうこともあった振り返りをその場で全体で共有することを心がけた。その結果、多くの学生が自分たちの模擬保育の内容をしっかりと把握した上で参加し、計画と実践のずれやそれについての反省点をしっかりと認識できるようになったと感じた。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【火曜・4限 R3360007 [保育実践研究] 亀井 美弥子】

今年初めて環境の指導の応用を意識して、前期ではゼミで植物を育てたり、各グループで環境に関連する活動を行いました(これまでは研究に向けた授業だった)その結果、大変意欲的な学生だったこともあり、ゼミの雰囲気はとてよく楽しかったのですが、果たして学生にとっての学びにつながったのかどうか、私自身疑問に思いました。グループでの企画などもただ、何かをやってみたい！やってみた！楽しかった！ということに終始してしまっていたように感じます。また、前期を自由な活動に費やしてしまった結果、後期の研究はかなりキツキツになってしまいました。ゼミ生の力量があり、最後まで頑張ってくれましたが、もう少し余裕をもって研究を行えるとよかったと反省しています。

以上より、来年度は「考える保育者になる」ということを主眼とし(これは他の授業でもいつも学生に言っているのですが…)、じっくりと問題意識を醸造する時間を設け、そのうえで実践を行うという流れを工夫したいと思っています。それを通じて後期の実際の研究活動にもつながっていくような1年間の流れをめざしたいと思っています。後期の卒業研究の作成では各人の問題意識を大事にすることを伝え、各自が意欲的に取り組むことができたと思います。なお、ゼミのインスタグラムを作り、植物の成長記録について学生にアップをお願いしました。これについては来年度も何らかの形で継続したいと思っています。

## 6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
✓	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

### ・上記以外のエビデンス

(特になし)

### ・関連リンク・別途資料

(特になし)

### ・特記事項

(特になし)

## 7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	保育	2	23353001	保育実習指導Ⅱ
前期	保育	2	31328001	幼児の理解と相談
前期	保育	2	31328002	幼児の理解と相談
後期	保育	1	23351001	保育実習Ⅰ(保育所)
後期	保育	1	31318001	子どもの理解と援助
後期	保育	1	31318002	子どもの理解と援助
後期	保育	1	31318003	子どもの理解と援助
後期	保育	2	23324501	地域子育て支援論
後期	保育	2	23352501	保育実習Ⅱ
通年	保育	1	23322001	環境の指導
通年	保育	1	23322002	環境の指導
通年	保育	1	23322003	環境の指導
通年	保育	1	23322004	環境の指導
通年	保育	1	23352001	保育実習指導Ⅰ
通年	保育	2	R3360007	保育実践研究

## 7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	保育	2	23353001	保育実習指導Ⅱ
前期	保育	2	31328001	幼児の理解と相談
前期	保育	2	31328002	幼児の理解と相談
後期	保育	1	23351001	保育実習Ⅰ(保育所)
後期	保育	1	31318001	子どもの理解と援助
後期	保育	1	31318002	子どもの理解と援助
後期	保育	1	31318003	子どもの理解と援助
後期	保育	2	23324501	地域子育て支援論
後期	保育	2	23352501	保育実習Ⅱ
通年	保育	1	23322001	環境の指導
通年	保育	1	23322002	環境の指導
通年	保育	1	23322003	環境の指導
通年	保育	1	23322004	環境の指導
通年	保育	1	23352001	保育実習指導Ⅰ
通年	保育	2	R3360007	保育実践研究

以上

# 湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022	～	2023
所属学科	保育学科		
職名	准教授		
教員氏名	高橋 雅人		

## 1. 教育の責任（何を行っているか）

私は本学において、主に福祉系の科目を担当している。  
2022年度の担当科目、および教育の責任は以下の通りである。

- ①「社会福祉」では、保育士が社会福祉をなぜ学ぶのかという理由を理解することからはじめる。授業を通じ、私たちの生活の中で福祉が今後どのように発展していくべきなのか、保育士になるにあたり一人ひとりが興味・関心を抱くことができるようになることを目指している。
- ②「子ども家庭福祉」では、子どもや家庭、地域を支援する保育者として必要な子ども家庭福祉の制度や実施体系の知識を習得し、子ども家庭福祉が今後どのように発展していくべきなのか、一人ひとりが興味・関心を抱くことができるようになることを目指している。
- ③「社会的養護Ⅰ」では、社会的養護に関する基本的な知識を習得するとともに、児童福祉施設で勤務するために必要な人間性、職業倫理を身につけることを目指している。また、施設保育士が子どもを支援するうえで必要な「施設養護の支援内容」の理解をとくに重要視している。
- ④「社会的養護Ⅱ」では、施設保育士が行う支援内容、求められる職業倫理や資質を身につけることを目的とする。とくに、虐待を受けた子どもの支援については、演習を通じて具体的なかかわり方を習得することを目指している。
- ⑤「子ども家庭支援論」では、子育て家庭に対して行う保育士の相談技術、活用する社会資源の習得、保育士の役割について理解することを目的としている。実際に子育て家庭に起きている様々な問題は、事例を基に解決力を習得できるようにし、実践力となることを目指している。
- ⑥「保育実習指導Ⅲ」では、2度目の施設での実習がより実践的になるよう、児童福祉施設で勤務する施設保育士の専門性と職業倫理の習得を視野に入れた事前事後指導を行う事を目指している。
- ⑦「保育実践研究」では、研究テーマの最終発表にそなえ、仲間と協力して調査・研究すること、語彙力を増やし口頭発表などで発信力を高めることを目的としている。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、保育現場で即戦力となる人材を養成することである。

## 2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の3点を重要視している。

- 1) 保育現場で即戦力となる専門性の習得。
- 2) 事例を活用し、実社会を意識した理論と実践の提供。
- 3) 双方向授業を用いてコミュニケーションスキルの育成。

### 3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

上述の教育理念を達成するため、担当する授業において次のような工夫、方法を行った。

- 1) 保育現場で即戦力となる専門性の習得。  
保育現場で即戦力となる人物は自己研鑽をしている。現場経験を振り返ると、自ら学ぼうとする意欲にあふれていた若手職員は即戦力となっていた。専門性を高めようと努力する人材を養成するための契機として、授業内容に関連した新聞記事を毎授業で提供した。新聞記事は、e-ラーニングに載せた。
- 2) 事例を活用し、実社会を意識した理論と実践の提供。  
現場の新たな問題をテーマとした事例研究を授業で用いた。グループワーク、ペアワークの演習を多用した。
- 3) 双方向授業を用いてコミュニケーションスキルの育成。  
コミュニケーションスキルを高めるために、フィードバックペーパーを活用した。フィードバックペーパーへの返信は責務としている。

### 4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2022年度の授業評価については、担当する科目で満足度が高評価を得た。好意的なコメントは、「現場の話しを取り入れてくれるので理解しやすかった」など、実務経験を活用した授業への評価であった。今後も、現場のエピソードを授業に取り入れることは、学生のニーズとして受けとめ、学生の理解が深まっていくように工夫していきたい。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

(授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り等について、5-2に記載)

## 5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

### ■前期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【水曜・4限 23312501 [社会福祉] 高橋 雅人】

①授業評価アンケートQ2について。

社会福祉(や子ども家庭福祉)は、社会動向に興味を持つことで理解が深まっていく科目である。そのため、新聞を読む習慣を復習として取り入れることを定着させたいと考え授業を計画した。

今年度のシラバス「授業時間外の学習」の作成は、「学生の予習復習への意識を高め、自主的に取り組む課題の設定」を目的とした。そのため、昨年度は「教科書を読むこと、新聞に目を通すこと」という漠然とした記述だったが、今年度は「予習:テキスト〇〇頁を読み専門用語を理解すること。復習:用意した新聞記事に目を通すこと」と理解しやすい記述にした。また、授業にて「授業内容に関連した新聞記事は、これ、を用意しました」と、必ずスライドに映し紹介するようにした。

新聞記事は1~2部をPDFにしてe-learningに掲載した。授業後に提出するフィードバックペーパーには、読んだ感想を述べる学生もいた。また、ノートに新聞の切り抜きを貼りラインを引く学生もいた。

昨年度の評価ポイントは平均点以下であったが、今年度は上回っていたことから効果があったと思う。保育現場に必要な即戦力となるためには自己研鑽できる人材を養成することが必要だと思い授業を行っている。自主的に学習習慣を確立するには、これからも学生が興味を持てる教材の提示を続けていきたい。

②授業評価アンケートQ8について。

Q8は、昨年度と比較し評価ポイントが向上した。社会福祉は、難解な専門用語や法制度が多いため理解しにくい科目だと思う。学生にわかりやすく教えるために、今年度新たに組み込んだことがある。それは、授業開始時に「今日のポイント(要点)」を提示し、PowerPointの最初のページに記述することだ(今日のポイント=今日一番覚えておいてほしいことである)。「今日のポイント」を授業の冒頭に提示したことで、学生は各回のどこに焦点を置き学べばよいのかを理解できたと思える。その結果、評価のポイントが向上したと思う。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【火曜・1限 31313502 [子ども家庭福祉] 高橋 雅人】

改善点として、Q7オンライン授業について。

対面授業では、実務で経験した(施設で暮らす子どもの様子、虐待を受けた子ども、その親のことなど)プライバシーな情報を話すことがあるため、学生の反応を見ながら話すことができる。オンライン授業では、学生の様子や内容に対する反応が伝わらないため、欠席した学生には、zoomの参加を控えてもらったことがある(プライバシーな内容をオンライン授業で伝えることを避けてきた。欠席学生には、後日課題で対応した)。

実務経験を学生に伝えることは、学生からも現場の話聞くことができ良かった、有意義だったと肯定的な意見をもらっている。今後は、対面とオンライン授業の差異がないような工夫をしていきたい。

■後期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【火曜・1限 31314501 [社会的養護 I] 高橋 雅人】

設問8が評価されたのは、学生が一番知りたい現場の話ができるからだと思う。特に施設のことは未知の領域であるため、学生のイメージ作りに現場の話は有効であった。設問9の授業の満足度が平均値より上回っていたのは、毎回学生に書いてもらっているフィードバックペーパーへの返信を義務付けていることが高評価に繋がっていると思う。フィードバックペーパーは、授業の理解度をはかることにも役立っている。一方的な講義にならないように、フィードバックペーパーは継続していきたい。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【月曜・2限 31320001 [子ども家庭支援論] 高橋 雅人】

授業で提示する資料をわかりやすくしたい。本授業では、成績評価の対象として授業終盤にノートを回収した。そのため、学生はまとめやすい資料の提示をのぞんでいるのだと思う。また、資料として映像を取り入れなかった。次年度は、学生の理解に繋がるような映像を資料として適宜取り入れていきたい。

## 6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
✓	授業参観コメントシート	
✓	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

## 7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	保育	1	23312501	社会福祉
前期	保育	1	23312502	社会福祉
前期	保育	1	31313501	子ども家庭福祉
前期	保育	1	31313502	子ども家庭福祉
前期	保育	1	31313503	子ども家庭福祉
前期	保育	2	23354001	保育実習指導Ⅲ
前期	保育	2	31325501	社会的養護Ⅱ
前期	保育	2	31325502	社会的養護Ⅱ
後期	保育	1	23351501	保育実習Ⅰ(施設)
後期	保育	1	31314501	社会的養護Ⅰ
後期	保育	1	31314502	社会的養護Ⅰ
後期	保育	2	23353501	保育実習Ⅲ
後期	保育	2	31320001	子ども家庭支援論
後期	保育	2	31320002	子ども家庭支援論
通年	保育	1	23352001	保育実習指導Ⅰ
通年	保育	2	R3360010	保育実践研究

## 7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	保育	1	23312501	社会福祉
前期	保育	1	23312502	社会福祉
前期	保育	1	31313501	子ども家庭福祉
前期	保育	1	31313502	子ども家庭福祉
前期	保育	2	23354001	保育実習指導Ⅲ
前期	保育	2	31325503	社会的養護Ⅱ
前期	保育	2	31325504	社会的養護Ⅱ
後期	保育	1	23351501	保育実習Ⅰ(施設)
後期	保育	1	31314501	社会的養護Ⅰ
後期	保育	1	31314502	社会的養護Ⅰ
後期	保育	2	23353501	保育実習Ⅲ
後期	保育	2	31320001	子ども家庭支援論
後期	保育	2	31320002	子ども家庭支援論
通年	保育	1	23352001	保育実習指導Ⅰ
通年	保育	2	R3360010	保育実践研究

以上

# 湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022	～	2023
所属学科	保育学科		
職名	講師		
教員氏名	小野 修平		

## 1. 教育の責任（何を行っているか）

私は本学において、保育士資格や幼稚園教諭二種免許状取得に関わる演習科目を担当し、その中でも「造形表現」、「造形表現Ⅱ」、「表現の指導(造形)」、「保育実践研究」の科目を中心に教育している。2022年度の担当科目は、別記の通りである。また、課外活動では、湘北祭実行委員会制作部門顧問、絵本サークル顧問を務めている。課外活動の指導においては、学生が協力してイメージを形にできる製作活動に取り組めるように、助言や共同作業を行っている。私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、学生が主体的で創造性のある学びを深めることが出来るように、表現やものづくりの分野から、幅広い視点で教授することであると考えている。

## 2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、以下の3点を重視している。

### 1) 表現力の育成

創造性のある保育を行うためには、表現力が不可欠である。多様な表現領域の中でも、モノに関わり、目に見える形で表現する“造形的な表現力”の育成を重視している。

### 2) 実践力の育成

保育者として重要な実践力は、多くの経験の積み重ねにより養われる。各授業の中で行われる発表・模擬保育・現場体験を通して、実践力を育成することを重視している。

### 3) コミュニケーション力の育成

社会で生きる一人の人間として、豊富なコミュニケーション能力は、他者との繋がりや相互理解に欠かせない。授業内での少人数指導やマイスター制を通して、学生と学生、学生と教員とが、適切に関わることで、コミュニケーション力を育成することを重視している。

### 3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の考え(教育の理念)を実現するため、担当する授業において、次のような内容を実践している。

「造形表現」では、子どもの造形活動に関する基礎知識を、材料の特徴・道具の使い方・技法的側面から指導している。その中で学生は、材料の特性と表現効果・用具や道具類の扱いや、準備・後片付け・安全の確保のための援助方法を学ぶ。授業で制作した実際の作品と、制作工程などを記載したワークシートは、1冊のスケッチブックにまとめることで自分自身のポートフォリオとして完成させ、将来の現場で役立つ資料として活用できるようにすることを目指している。

「表現の指導(造形)」では、領域「表現」における造形的な表現活動の内容、指導方法、展開の仕方、作品制作について指導している。その中で学生は、保育現場での実践を想定した題材提示・制作指導と実技実践を模擬的に行う。また、将来保育現場で活用することを想定したグループによる作品制作、発表活動を行う。これらに対する教員からのフィードバックを繰り返すことで、保育へ活かす表現力と実践力を身に着けることを目指している。

「造形表現Ⅱ」では、表現領域における造形的な側面から、保育者としての知識や援助技術を深めていく。その中で学生は、「共同制作」(模擬造形展)による発表活動、「他領域との関わり」を考察した作品制作、保育環境を豊かにする作品制作を行う。2年間で習得した造形的な技術や表現力を発展させた活用・実践を行うことで、子どもとの造形活動を通じた関わり方や援助の方法について多角的に考察していくことを目指している。

「保育実践研究」では、人形劇を用いた表現活動を主軸とし、人形製作・演技・環境構成から指導する。ゼミ内でのフィードバックとディスカッションを繰り返すことで、保育者として総合的な表現力を育成していく。完成した作品は、近隣の保育所の協力を経て発表をおこなっている。

こうした教育活動における教示の方法として、PPTを用いたスライド(活動のねらい・方法・計画・まとめ等)の投影、書画カメラを用いた実技見本の提示、自身の研究や現場実践例の活用、個別のフィードバックや全体講評会等を中心に行っている。また、上記全ての科目において、グループワーク、発表活動、ディスカッション等を活用したアクティブラーニングを取り入れており、学生が主体的で創造性のある学びを深めることが出来るように指導している。

### 4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2022年度の授業評価アンケートにおいては、すべての科目において、「総合的にみてこの授業に満足しましたか」の項目が100%の肯定的評価(「とても満足」「満足」)を得ており、学生の満足度も高く、積極的に受講することができたようであった。特に「保育実践研究」や「造形表現Ⅱ」においては、回答者の全員が「とても満足」を選択しており、少人数による丁寧な授業内容が左記の結果に繋がったと考える。一方で、教員2名で指導した授業において、教員間での指示内容の違いがあった点も、意見として挙げられた。指導教員間でのコミュニケーションも綿密に行い、これらの改善に努めていきたい。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

(授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り等について、5-2に記載)

## 5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

(記載なし)

### ■後期科目■

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【水曜・2限 31329501 [造形表現] 小野 修平】

今年度はほとんどネガティブな意見はみられなかった。理由としては、実践的な授業でありながら、オンライン授業はほぼ行われなかったことが大きいと考える。大変少数の意見であるが、PPT上の写真を大きくする点は改善の余地があると考え。また、予習復習も含めた総合的な課題の提案は、学生の個々の学習形態・実態に応じて柔軟に対応できるよう、よりよい方法を模索していく。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【水曜・1限 31329503 [造形表現] 小野 修平】

今年度の授業内容の中では、制作した内容をポートフォリオにまとめることで得られる「達成感」に対する肯定的な意見が複数見られた。全30回の授業の中で、将来現場で活用が期待される表現手法や教材研究などを盛り込んだ内容であり、数ある題材の中から選定した活動自体の魅力も、本結果に繋がったと考える。また、教科書を投影しながらの授業進行に対しても、肯定的な意見が複数見られた。口頭で説明することも可能だが、同時にポイント提示をしながら進めることなど、小さな工夫が受講者の満足度に繋がったと考える。

## 6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
✓	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

## 7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	保育	2	23326501	表現の指導(造形)
前期	保育	2	23326502	表現の指導(造形)
前期	保育	2	23326503	表現の指導(造形)
前期	保育	2	23326504	表現の指導(造形)
前期	保育	2	26350001	教育実習
前期	保育	2	26350501	教育実習指導
後期	保育	2	R2330001	造形表現Ⅱ
後期	保育	2	R2330002	造形表現Ⅱ
通年	保育	1	31329501	造形表現
通年	保育	1	31329502	造形表現
通年	保育	1	31329503	造形表現
通年	保育	2	R3360009	保育実践研究

## 7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	保育	2	23326501	表現の指導(造形)
前期	保育	2	23326502	表現の指導(造形)
前期	保育	2	23326503	表現の指導(造形)
前期	保育	2	23326504	表現の指導(造形)
前期	保育	2	26350001	教育実習
前期	保育	2	26350501	教育実習指導
後期	保育	2	23340004	保育・教職実践演習(幼稚園)
後期	保育	2	R2330001	造形表現Ⅱ
通年	保育	1	31329501	造形表現
通年	保育	1	31329502	造形表現
通年	保育	1	31329503	造形表現
通年	保育	2	R3360009	保育実践研究

以上

# 湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022	～	2023
所属学科	保育学科		
職名	講師		
教員氏名	田中 あかり		

## 1. 教育の責任（何を行っているか）

私は本学において、保育士資格や幼稚園教諭二種免許状取得に関わる科目を担当している。中でも保育の内容や方法に関わる「乳児保育Ⅰ」「乳児保育Ⅱ」「保育内容総論」「保育・教育課程論」、及び保育の本質や目的に関わる「保育者論」を担当している。また、幼稚園教諭の経験及び幼稚園での実践研究の経験を活かし、「教育実習指導」を3名の専任教員と共に行っている。

## 2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、以下の3点を重視している。1)生きる主体として子どもの姿を捉え、自ら考え問題を解決しようとする力の育成、2)子どもの発達に関する専門的知識、及び具体的な技術の習得とその根拠の理解、3)保育者の専門性の理解と目指す保育者像の探求。

### 3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

上述の教育理念を達成するため、「保育内容総論」では次のような授業を行っている。前半では幼稚園や保育所の様子を記録した視聴覚教材を多く用いて、実際の子どもたちの姿と生活を共にする保育者の姿から、乳幼児期の子どもにとってふさわしい生活について考え、保育の基本を習得する。その過程では、教員の話聞くだけでなく、実際に読み取ったことを書き、発表することを通して自ら気づくことを重視している。後半は、実際に図書館に行き、保育教材を自身の関心や観点から選び、自ら考え指導案を立て、実践し、振り返ることをしている。1年次後半の目標を持てるように意識している。

「乳児保育Ⅱ」では、適切な援助を行うためには、子どもの発達についての理解が必要であることを重視し、食事、衣類の着脱、排泄の援助などについて、子どもの発達の様子を丁寧に講義した上で、調乳演習、沐浴演習といった具体的な技術を教授している。

「保育者論」では、2年間の学びの集大成として、これまで学んできた保育者の専門性を整理し意識できるような授業を展開している。この時、単なる専門性について言葉だけの羅列とならないよう、保育現場の実際の映像を用いて授業を行い、自分の考えを発表する機会を多くし、学生が共に学びを深めていくことができる授業を目指している。

### 4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

【2022年度前期授業評価アンケート】及び【2022年度後期授業評価アンケート】において単独で担当する全ての科目で総合的な満足度が3.7を超えた。しかしながら、今年度はアンケートの回答者数が少ない科目もあり、もっと回答を呼びかけるべきだったと反省している。そして、回答者数が少ないことから評価の数値は厳しく見るべきだと考えている。そもそも授業に好感を持つ学生が回答する傾向にあると考えるからだ。

良い評価に繋がった点としては、例えば昨年度以上に授業内の時間配分を意識し、学生がリラックスして楽しめる時間を間に設けつつ、時間に余裕を持って終了するように意識したことが挙げられる。学生が難しい内容にも集中して授業に取り組むことが出来、学生の達成感に繋がったと考える。また昨年度に引き続き、授業では生きた資料(映像資料や教員の子育ての話)を授業の緩急や内容に応じて適宜取り入れたことが大きいと考える。学生の自由記述欄には映像資料や子育ての話について良かったという感想が多く見られた。

また、2年次後期「保育者論」について、昨年度は総合的な満足度がaクラス3.71、bクラス3.73だったが、今年度はaクラス3.71、bクラス3.82と特に今年度bクラスで満足度が高かった。これについては、昨年度同様、一人の子どもの幼稚園での3年間を追った映像資料を用いて授業を展開したことと、昨年度以上に学びのテーマを明確にし、映像資料を視聴する前に「見る視点」を設けたことが大きかったと考える。授業評価の自由記述では、「実践的に学ぶことができた」「様々な関わり方、子どものあり方などが勉強になった」という記述が見られた。「保育者論」は卒業前の2年次後期の授業であることから、保育についてより深めることができる。来年度も教員自身が自らの研究で深めていることを活かし、より一層分かりやすく、レベルの高い授業を実施できるように工夫していきたい。

## 5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

昨年度と同様ではあるが、相互授業参観週間や複数名の教員で行っている授業では、他教員の授業の良い点から学ぶように心がけている。他教員からは話し方や資料の使い方だけではなく、大事にしていることや学生とどのように向き合っているのか、教員としての在り方を学ぶように心がけている。授業評価アンケートについては自由記述欄も全て読むようにし、改善点については別用紙に書きだし、次年度の授業に活かすようにしている。また、授業の前後に直接学生に授業に対する感想を聞いたり、定期的に授業内でも感想用紙を配布回収したり、学生の意見を聞くことを大切にしている。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである。

### I. 短期目標

- 1) 1コマあたりの授業目標を明確にし、可能な限り目標を1つに絞り、その目標に向かって丁寧に、深く伝えることができるようにする
- 2) 新しい担当科目である「子ども家庭支援の心理学」では、学生が現代的な問題に意識を向けることができるよう、社会状況を分かりやすく取り入れ、考える授業を行う
- 3) 評価の方法をより明確にし学生に伝えていくことで個々の努力が反映されるように、そしてより見える形にしていく

### II. 長期目標

- 1) 授業の中で効果的にデジタルやIT機器を活用し、より魅力的な授業を創造する
- 2) デジタルやIT機器の活用以外にも、新しい教育の在り方を模索し、効果的な教育方法を取り入れていく
- 2) 自らの研究内容と結果を授業で活かしていく

## 5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

### ■前期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【水曜・4限 31362002 [乳児保育Ⅰ] 田中 あかり】

昨年度の授業評価アンケートの結果、時間配分の工夫が課題として挙がりましたので、今年度は内容を精査し詰め込まないようにし、毎回必ず5分前に終了するように意識しました。その結果、「乳児保育Ⅰ」においては時間配分の指摘がなく、授業内容のボリュームも改善できたと思います。また、再年度同様、授業ではホームビデオを教材として使用しましたが、良かったという自由記述が多数見られました。具体的な乳児の姿が学びのモチベーション、そして学びの深まりに繋がることを感じました。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【木曜・1限 31362502 [乳児保育Ⅱ] 田中 あかり】

授業評価アンケートからは、「授業のスピードが速かった、ギリギリに終わることも授業の最後の方の内容が覚えられなかった」「126教室のテーブルが小さくて使いにくかった」「演習の時間が増えると嬉しい」「映像ではなく教員によるデモンストレーションを増やしてほしい」という指摘がそれぞれ1名でしたがありました。特に、授業内容のボリュームや時間配分は意識していましたが、4クラスの進み具合を揃えるために詰め込んでしまった回も多く反省しています。使用教室の変更は現状では難しいですが、次年度は配布プリントの大きさなどできるところから工夫していきたいと思っています。その他についても考えていきたいと思っています。

### ■後期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【火曜・4限 31315503 [保育・教育課程論] 田中 あかり】

本授業では、2名の教員で1クラス受講生50名弱の指導案を一人一人添削し面談をしながら返却しています。今年度の授業評価アンケートでは、指導案を個別に添削しコメントして返却してもらえることが良かったという記述が目立ちました。昨今の傾向として学生は個別の指導を求める傾向が強いことを感じます。一人一人への丁寧な指導をより一層意識して進めていきたいと思っています。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【金曜・1限 23316202 [保育者論] 田中 あかり】

総合的な満足度は3.82と高くはあるが、「Q6.担当教員が提示・配信した授業資料、ビデオ、パワーポイント等は、授業を理解するうえで適切でしたか？」の設問に対して「適切ではなかった」を回答した学生が6.8%いました。自由記述欄にその理由は見当たりませんでした。特にパワーポイントの作り方などが適切かどうか、来年度は丁寧に学生に確認しながら進めたいと思いました。

## 6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
✓	授業参観コメントシート	
✓	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)
--------

・関連リンク・別途資料

(特になし)
--------

・特記事項

(特になし)
--------

## 7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	保育	1	31362001	乳児保育Ⅰ
前期	保育	1	31362002	乳児保育Ⅰ
前期	保育	2	26350001	教育実習
前期	保育	2	26350501	教育実習指導
後期	保育	1	31315501	保育・教育課程論
後期	保育	1	31315502	保育・教育課程論
後期	保育	1	31315503	保育・教育課程論
後期	保育	2	23316201	保育者論
後期	保育	2	23316202	保育者論
後期	保育	2	23340004	保育・教職実践演習(幼稚園)
通年	保育	1	31321001	保育内容総論
通年	保育	1	31321002	保育内容総論
通年	保育	1	31321003	保育内容総論
通年	保育	1	31362501	乳児保育Ⅱ
通年	保育	1	31362502	乳児保育Ⅱ
通年	保育	1	31362503	乳児保育Ⅱ
通年	保育	1	31362504	乳児保育Ⅱ
通年	保育	2	R3360011	保育実践研究

## 7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	保育	2	26350001	教育実習
前期	保育	2	26350501	教育実習指導
前期	保育	2	31361501	子ども家庭支援の心理学
前期	保育	2	31361502	子ども家庭支援の心理学
後期	保育	1	31315501	保育・教育課程論
後期	保育	1	31315502	保育・教育課程論
後期	保育	1	31315503	保育・教育課程論
後期	保育	1	31362501	乳児保育Ⅱ
後期	保育	1	31362503	乳児保育Ⅱ
後期	保育	2	23316201	保育者論
後期	保育	2	23316202	保育者論
通年	保育	1	31321001	保育内容総論
通年	保育	1	31321002	保育内容総論
通年	保育	1	31321003	保育内容総論
通年	保育	2	R3360011	保育実践研究

以上